

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：35413

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520730

研究課題名(和文)映画を活用した習熟度別教育対応型英語教材の開発および指導法に関する研究

研究課題名(英文)Development of Film-based WBT Courses Responding to Various Proficiency Levels

研究代表者

角山 照彦(KADUYAMA, Teruhiko)

広島国際大学・看護学部・教授

研究者番号：00300418

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、学力の多様化に対応するため、動機づけに効果的とされる映画を活用して、習熟度および動機づけに大きな差がある大学生の英語運用能力の向上を目指した英語教材を開発した。開発教材は著作権法上の制約が少ないパブリックドメイン映画2作品を使用しており、映画の同一場面を素材とした難易度の異なるレベル別のe-learning教材であるが、実験の結果、習熟度の異なる3調査群すべてにおいて有意な得点上昇が観測された。

研究成果の概要(英文)：With the diversification of scholastic ability rapidly advancing, the compelling need for meticulous teaching responding to various proficiency levels is greater than ever and the utilization of films has been attracting attention as highly effective materials for student motivation. In this study, a series of multilevel e-learning courses was developed with the use of public domain films, and an experiment was conducted to verify whether their use results in improved English proficiency. The results revealed that their use helped improve the listening abilities of learners.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：映画英語教育 eラーニング パブリックドメイン映画 リメディアル教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 多様化が進む大学生の学力に対応するため、現在多くの大学にて習熟度別教育やリメディアル教育が実施されている。習熟度別教育においては、レベルの異なるクラスごとに全く内容の異なる教科書で授業が進められることが多いが、同一科目の場合、少なくとも取り上げる題材やテーマは同一のもので学習し、到達目標とするスキルをクラスのレベルに合わせて指導するのが本来の姿であろう。ただ、そうした同一題材によるレベル別教材が現在不足しているのが現状である。また、リメディアル教材に目を向けた場合、語彙、文法項目等に関しては、入念な検討が加えられているものの、題材・素材自体は従来の教材と大差ないものが多く、一見中学校の教科書と見間違ふものも存在する。これまでの英語学習で躓いてしまった学習者には、同じ教科書をもう一度やり直させるといった従来型のアプローチだけでなく、これまでと異なるアプローチが不可欠である。つまり、大学生を対象としたリメディアル教材開発においては、成人が高い興味・関心を示す素材の活用が求められている。

(2) 一方、映画は、学習者の英語レベルに関係なく、学習者が極めて高い関心を示す素材として英語教育においても広く活用されているが、指導法研究や教材開発の点においてはまだ十分とは言えない状況にある。映画を活用した英語学習教材は近年各種出版されてきているが、レベルは総じて高めで、初級レベルの学生に活用できるものや、リメディアル教育を念頭において製作されたものは皆無である。このように、動機付けへの高い効果が実証されている映画という素材が、動機付けに大きな問題を抱える学習者にこれまで十分に活用されてきていないという現実がある。

(3) そうした現状を踏まえ、本研究代表者は、習熟度別教育やリメディアル教育での利用を念頭に、映画を活用したレベル別教材の開発を計画し、リスニングだけに留まらない体系的なコミュニケーション指導を目指した映画教材を開発してきた。授業外での学習を促進する観点から教材の e-learning 化が望まれたが、著作権法上の問題からこれまでの開発教材は e-learning 対応型とすることが困難であった。しかし、2007 年最高裁判所は、1953 年公表の映画については 2003 年 12 月 31 日をもって著作権の保護期間が終了したと判断し、1953 年以前に公開された映画のパブリックドメイン (公的財産) 化が確定した (文化庁長官官房著作権課, 2008)。したがって、著作権法上の制約が少ないパブリックドメイン映画を活用することにより、画像や音声を含む本格的な映画 e-learning 用

教材を開発する環境が整ってきた。

2. 研究の目的

本研究は、映画の同一場面を素材とした難易度の異なる 3 レベルの e-learning 対応型英語学習教材を開発し、現在多くの大学にて実施されている習熟度別教育やリメディアル教育の効果を上げることを目的としている。開発教材は、動機付けに非常に効果的であるとされる映画を活用し、習熟度・動機付けに大きな差がある大学生の基本的英語運用能力の向上を目指したものであり、著作権法上の制約が少ないパブリックドメイン映画を使用した e-learning 対応型教材とすることで、教室内の学習のみならず教室外での自発的学習に資するものとなっている。

本研究の期間内に明らかにしようとする点は次の 3 点である。

習熟度別教材・リメディアル教材開発における映画素材の活用可能性および有用性

パブリックドメイン映画とされる膨大な作品群の中に、習熟度別教育やリメディアル教育に活用できる場面が実際に存在するのか、また、それらを活用して体系的な学習システムが開発できるのかを教材開発を通じて明らかにする。

開発教材の学習者への動機付けへの効果

リメディアル教育を必要とする習熟度の低い学習者にとって、映画を活用した英語教材が従来の教材と比較して特に高い興味・関心を呼び起こし、自発的な学習へと結びつくものとなりえるのかどうかを測定・評価する。

開発教材の英語運用能力向上への効果

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するために、次のような計画・方法によって研究を遂行した。

(1) コースウェアの大枠決定

研究代表者の勤務校の大学生を対象とした共通英語能力テストおよび質問紙法により、学生のニーズおよびレベルの把握を行い、A~C の 3 レベルに分かれた習熟度別教育用教材に必要とされるレベル・到達目標を選定した。並行して、習熟度別大学用英語教材の調査を行い、シラバスデザインや必須項目、演習方法等について評価を加えると共に、前述の検討結果と比較しながら、必須項目となる指導項目やレベルを選定し、コースウェアの大枠を完成させた。

(2) パブリックドメイン映画の素材研究および教材開発

次に、コースウェアの素材となるパブリックドメイン映画の収集および内容の調査を行った。大学生の専攻・関心等を考慮しながら、素材となる映画として 20 作品程度を候

補として検討し、先に選定した指導項目を活用しながら、言語機能別シラバスに対応した映画の場面選定を行うと共に、設問・演習等の教材開発に着手した。教材は習熟度別教育（A～Cレベル）に対応するよう3種類開発した。候補として選定した場面については、実際に大学生に視聴させて、興味・関心についてフィードバックを受けながら最終的な選定作業を進め、開発教材についても実際に大学生に試用しながら、難易度等に必要な修正を加えた。また、パブリックドメイン映画の著作権許諾を専門とする業者（株式会社ブレントラスト）に、映画のマスターテープの入手および著作権許諾、学習用DVD製作に関わる業務を委託し、選定場面ごとにチャプターを区切るなどした学習用映画DVDを制作した。

（3）e-learning 用プログラムへのコンテンツ移植

パブリックドメイン映画の中から選定した場面および開発教材について、e-learningに対応できるようe-learning用プログラムにコンテンツの移植および必要な修正等を行った。使用するプログラムとしては、機能、操作性等、様々な観点から検討を加えた結果、オープンソースのコース管理システム（CMS）の一つであるMoodleを選定した。また、開発教材については、対面授業とe-learningのブレンディット・ラーニングを実践できるように、テキスト版も制作したが、e-learningでの自主学習を促進するため、e-learning独自のコンテンツも数種類製作した。

4. 研究成果

（1）言語機能別シラバスデザインに基づき英語教材化するのに適したパブリックドメイン映画を選定した結果、『ローマの休日』および『シャレード』の2作品をメインコンテンツとしてレベル別WBT（Web-Based Training）教材および教材用映画DVDをそれぞれ開発した。まず、先行して開発した『ローマの休日』を活用したWBT教材の活用が、授業時間外学習の増加やその結果としての英語力向上につながるのかどうかについて検証した結果、WBT教材の活用は習熟度に関わらず学習者の動機づけに効果があり、授業外学習時間の増加に貢献することがわかった。また、リピーティング、シャドーイングといった音声中心の演習を充実させることでリスニング力向上にも一定の効果が見られることがわかったが、その効果は従来の方法と比較して有意な差が認められるほどではなかった。

（2）リスニング力向上に関する（1）の結果

を受けてWBT教材の運用方法を再検討し、WBT教材を自主的な個別学習用の、いわば復習用ツールとしてのみ運用するのではなく、対面授業の一部として組み入れたブレンド型授業を実践することで、学習者の授業外での学習が促進され、その結果として学習時間の増加や英語力の向上が見られるかどうかについて『ローマの休日』を活用したWBT教材を用いて再検証した。その結果、授業内・外ブレンド型授業によるWBT教材の活用は、復習用ツールとしての活用と比べ、学習者の授業外学習時間の増加に貢献し、リピーティング、シャドーイングといった音声中心の演習を充実させることで従来の方法と比較してリスニング力向上にも効果的であることがわかった。

（3）続いて作成した『シャレード』を活用したWBT教材の効果についても『ローマの休日』版WBT教材と同様の手法を用いて検証を行った。その結果、WBT教材を完備することにより、学習者の授業外学習時間はWBT教材が用意されていない場合と比べて増加し、また、リスニング力向上の割合も同様に有意な割合で高いことがわかった。この結果は『ローマの休日』版で得られた結果を基本的に支持しており、映画英語WBT教材の学習効果に関しては一定の評価を与えることができると考えられる。

（4）多様な学力層の学習者への対応を念頭において開発された映画英語WBT教材をブレンド型授業にて活用した効果について、上位群、中位群、下位群と異なる習熟度の学習者を対象にした調査結果をもとに考察した結果、ブレンド型授業によるWBT教材の活用は、習熟度の異なる3つの調査群のすべてにおいて、学習者のリスニング力向上に効果的であることがわかったが、特に中位層の学習者におけるリスニング力向上の割合が顕著であった。

（5）本研究では習熟度別クラスにおける運用における効果を検証したが、本WBT教材はその運用の仕方によっては単一クラス内における学力や動機づけの差にも対応することが可能である。例えば、上級、中級、初級とすべてのレベルの問題をWBTの学習者メニューに提示しておき、クラス内で上位の学習者には授業外でレベルの高い問題にチャレンジさせ、下位の学習者には易しい問題から始めさせるなど、学習者の多様化に対応したきめ細かな指導を行うことができる。

（6）今後の方向性だが、WBT教材の場合はやはり共有前提の教材作りを行い、共有を通じて既存のものをし続けていくことが肝要

だと考える。これまで同じ映画について各教員が多大な労力をかけて別々に行っていた教材作成に共有という概念を導入し、これまで点の状態バラバラに存在していた各教員の自作教材をモジュール化して線で繋ぐことができれば、よりよい教材の蓄積ができていくであろう。今回開発した WBT 教材はリスニングや音読等、音声面に焦点を当てたコースであるが、今後各教員がモジュール単位で教材コンテンツを追加していけば、語彙、文法、異文化、コミュニケーションなど、様々な側面に対応した総合的な学習教材に発展させていくことも可能である。

5. 主な発表論文等 〔雑誌論文〕(計5件)

Kadoyama, T., Ochi, T., Developing e-Learning Course Utilizing Public Domain Movies, *JACET Journal*, 査読有, No. 55, 2012, 111-120

角山照彦, ブリックドメイン映画を活用した e ラーニング教材の開発 - e ラーニングによる支援は「単位の実質化」につながるのか - , 映画英語教育研究、査読有、第 18 号、2013、27-39

角山照彦, パブリックドメイン映画を活用したブレンド型授業の効果、大学英語教育学会中国・四国支部紀要、査読有、第 10 号、2013、15-28

角山照彦, 語学教材として見たパブリックドメイン映画の可能性—『シャレード』を活用した WBT 教材—, 映画英語教育学会西日本支部 10 周年記念論集、査読有、2013、139-152

角山照彦, 習熟度に対応した映画英語 WBT 教材の開発 - 教材のモジュール化、共有化に向けた取り組み - , 映画英語教育研究、査読有、第 19 号、2014、1-14

〔学会発表〕(計7件)

角山照彦, 映像メディアは英語学習の自律性・継続性を実現するか - 習熟度に応じた映画教材の必要性 - , 外国語教育メディア学会第 51 回全国研究大会、2011

年 8 月 8 日、名古屋学院大学

角山照彦, 習熟度別教育に対応した映画教材の開発、第 9 回映画英語教育学会関西支部大会、2011 年 10 月 8 日、京都女子大学

角山照彦, 学力の多様化に対応した映画英語教育のあり方、映画英語教育学会北海道支部結成大会、2012 年 1 月 8 日、内田洋行コピキタス協創広場 U-cala

角山照彦, パブリックドメイン映画を活用した e ラーニング教材の開発—e ラーニングによる支援は「単位の実質化」につながるのか—, 第 28 回 JACET 中国・四国支部研究大会、2012 年 6 月 9 日、愛媛大学

Kadoyama, T., Developing e-Learning Course Materials Utilizing Movies in the Public Domain , The 18th ATEM National Conference, August 6, 2012 , Kyoto Women's University

角山照彦, 習熟度に対応した映画英語 WBT 教材の開発 - 教材のモジュール化、そして共有化 - , 映画英語教育学会第 19 回全国大会、2013 年 8 月 6 日、相模女子大学

角山照彦, 学力の多様化に対応した映画英語 WBT 教材の開発、平成 25 年度 JACET 中国・四国支部秋季研究大会、2013 年 10 月 26 日、香川大学

〔その他〕
ホームページ等
<http://kadoyama.sakura.ne.jp/moodle2/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

角山 照彦 (KADOYAMA, Teruhiko)
広島国際大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号：00300418

(2) 研究分担者

なし

(3)連携研究者

越智 徹 (OCHI, Toru)

大阪工業大学・情報センター・講師

研究者番号：10352048